

第 1 章 調査概要

I 調査の概要

1 調査の目的

県民の皆様の消費生活の安定及び向上に向けて、効果的な施策の推進を図るため、20歳以上の男女個人を対象に、消費生活に係る意識や実態を把握する調査を実施しました。

2 調査の項目

- (1) 消費者問題への関心度と意識について
- (2) 消費生活上のトラブルや不安について
- (3) 消費生活に関する情報について
- (4) 消費生活に関する講座や催しについて
- (5) 消費者問題に対する取組みとして行政に望むこと等について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 長野県全域
- (2) 調査対象（母集団） 調査地域に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 調査対象数（標本数） 2,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
(母集団の属性を二段階で区分し抽出する方法)
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査実施時期 平成24年1月25日（水）から同年2月8日（水）まで
- (7) 調査機関（委託先） 協同組合長野シーアイ開発センター

4 回収の結果

標本数	(A)	2,000件
回収数	(B)	1,252件
回収率	(B/A)	62.6%

※回収率は小数点第2位以下を四捨五入した。

II 標本設計の概要

1 層化

長野県全域において、第1層を広域圏、第2層を市町村とし、抽出すべき標本数（2,000人）を割り当てた。

広域圏	市町村
佐久地域	小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、軽井沢町、御代田町、立科町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村
上小地域	上田市、東御市、長和町、青木村
諏訪地域	岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村
上伊那地域	伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村
下伊那地域	飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊岡村、大鹿村
木曽地域	上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村
松本地域	松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村
北安曇地域	大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村
長野地域	長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、信濃町、飯綱町、高山村、小川村
北信地域	中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村

2 標本の抽出

(1) 第1層（広域圏別の抽出数の決定）

- ① 20歳以上人口を市町村選挙人名簿より把握（平成23年12月2日現在有権者数）
- ② ①より各広域圏の構成比を算出
- ③ 構成比による分配数＝2,000人×②広域圏の構成比
- ④ 1つの広域圏の抽出数が100人以上になるよう修正（修正分配値）
- ⑤ 抽出総数が2,000人を超えるため、増加分を、構成比を基に減算する数値を計算（減算数）
- ⑥ 修正抽出数＝④修正分配数－⑤減算数
- ⑦ 各広域圏の抽出数が、10人単位となるように1桁の数値を修正（最終抽出数）

(2) 第2層（市町村別の抽出数の決定）

- ① 各広域圏の抽出数を基に、広域における抽出間隔を算出
- ② 広域圏の抽出間隔を基に、各市町村別の抽出数を決定
(市部・町部・村部それぞれから抽出できるように調整)
- ③ 各市町村の対象者数を抽出数で除して、市町村の抽出間隔を決定
- ④ 市町村の抽出間隔を基に、選挙人名簿より対象者を抽出

【この報告書の見方】

- 1 調査の回答結果は、原則として小数点以下第1位（第2位を四捨五入）までの百分比で表示した。
なお、図表における数値の取扱いについては、実数値により計算している。そのため、合計値などでは四捨五入の関係上、比率の単純な合計とは多少の差がある。
- 2 『第3章 調査結果』においては、当該記載事項にかかわる質問及び回答結果（単純集計値、クロス集計値）などを記載しているが、これらの質問内容や選択肢には、紙面の都合上、調査票の原文を要約している箇所がある。
なお、原文については、巻末の『第5章 使用した調査票』に収録した。
- 3 当該質問に回答した人の実数（回答母数）を表記する場合は「n」と表示した。
- 4 当該質問に回答した人の実数（回答母数）が30を下回るものは、原則として図示するに留めた（母数が少ないため、本文ではふれていない）。
- 5 質問の回答を複数答えることのできる質問の場合は、構成比の合計が100.0%を超えることがあり、それぞれの構成比の合計を表示してある。
- 6 集計表では、回答者や該当者がいない場合は、「—」と表示した。
- 7 報告書中には、二つ以上の選択肢を合わせ、単純に比率を合算し表記しているものがある。
- 8 この調査の標本誤差は、次式によって得られる。ただし、信頼度は95%とする。
注）信頼度95%：100回同じ調査を実施したときに、概ね95回まではこの精度得られることを示す。

$$b=1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \doteq 1.96 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ただし、b：標本誤差（±少数ポイント）

N：母集団（人）

n：標本数（人）

P：回答比率（少数）

上式をもとに、本調査の標本誤差の早見表を掲げる。

回答比率と標本誤差（信頼度 95%の場合）

回答比率 (P) 標本数 n (人)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%
3,000	1.07	1.43	1.64	1.75	1.79
2,000	1.31	1.75	2.01	2.15	2.19
1,500	1.52	2.02	2.32	2.48	2.53
1,000	1.86	2.48	2.84	3.04	3.10
500	2.63	3.51	4.02	4.29	4.38
300	3.39	4.53	5.19	5.54	5.66

※上表は $(N-n) / (N-1) \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は 95%である。

注) 表の見方：例えば、ある設問の回答者数が 1,500 人であり、その設問中のある選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも $\pm 2.48\%$ ポイント以内 (57.52~62.48%) である、と見ることができる。